

#### 4. 職員研修

(1) 平成23年度公立大学協会図書館協議会研修会（秋田県立大学）

① 主 催 公立大学協会図書館協議会

② 担 当 秋田県立大学（東部地区）

③ 趣 旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識・能力の向上を図る。

④ 日 時 平成23年9月9日（金）

⑤ 会 場 ホテルメトロポリタン秋田

⑥ テーマ 「電子書籍と図書館」

⑦ 参 加 20大学23名

⑧ 日 程 基調講演 「デジタル時代の大学出版」

東京大学出版会販売部長 橋元博樹氏

事例報告1 「東北大学の電子書籍サービス」

東北大学附属図書館総務課情報企画係長 永井伸氏

事例報告2 「米国と日本の図書館電子化事情の比較」

株式会社紀伊國屋書店eコマース事業本部電子書籍事業部部長 新田英直氏

⑨ 報 告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載

⑩ 研修会決算報告

収 入	研修会予算	265,000円
-----	-------	----------

	合 計	265,000円
--	-----	----------

支 出	講師謝礼	60,000円
-----	------	---------

	講師旅費	91,300円
--	------	---------

	講師宿泊費	25,500円
--	-------	---------

	講師昼食代	3,000円
--	-------	--------

	講師茶代	969円
--	------	------

	会場使用料	81,081円
--	-------	---------

	合 計	261,850円
--	-----	----------

残 高	(返還額)	2,975円
-----	-------	--------

[残額3,150円 - 175円（振込手数料）]

## (2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主 催 国立大学法人筑波大学
- ② 日 時 平成23年7月4日(月)～7月15日(金)
- ③ 会 場 筑波大学春日エリア情報メディアユニオン3階共同研究会議室1  
[15日のみ第一エリア(中地区) 筑波大学附属図書館(中央図書館)]
- ④ 受講者 国立大学ならびに大学共同利用機関法人33名、公立大学1名、私立大学2名、  
計36名
- ⑤ 内 容 I 図書館マネジメント総論  
II 学術情報流通等各論  
III 演習・班別討議
  - ・問題発見・解決演習
  - ・班別討議・発表・全体討議
- ⑥ 研修報告

### 平成23年度 大学図書館職員長期研修参加報告

新潟県立看護大学 図書館 吉原貴子

平成23年7月4日～15日の間、筑波大学春日エリア情報メディアユニオンを主会場に平成23年度大学図書館職員長期研修が開催され、全国から36名が参加した。図書館マネジメント総論8科目、学術情報流通等各論13科目、演習・班別討議の各科目を受講した。

講義資料：<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2011/text2011.html>

ここでは印象に残った講義の概要とその感想を述べる。

#### <図書館マネジメント総論>

- 「大学と大学図書館」：学生が、大学を「ブランド」として捉える時代から、大学で何を身に着けたか「中身」で勝負する時代になり、「教師の背中を見て育つ学生＝教師は何をしなくてもいい時代」ではなくなった。学問に対しての志は低下しており、成績が優秀な学生であっても確実に答えの出るテーマをやろうとする傾向が強くなったため、大学は特に教育に力を入れなければならない時代になった。少子高齢化で学生の社会性も低くなっている。学生のやる気を育てるためには「知の構造化」と「俯瞰」が必要である。
- 「大学経営の課題」：大学図書館の活動は、あくまでも大学経営の一部として捉えられなければならない。経営が教学を支え、質の高い教学は経営基盤を強化する。経営陣は教員と職員の間に入り教職員が働きやすい環境を作らなければならない。組織の中にいる職員の意識改革があれば大学は変わる。そのためにもしっかりと経営基盤と人事が重要。
- 「経営学入門Ⅰ・Ⅱ」：ニーズは「不満の状態」や「課題」であり、それを探るためには対話の技術が必要である。すべてに対応することは出来ないが技術を伴ってマッチングさせていく。実際のサービス(知覚)に顧客がどんな期待を持つかによって、顧客満足の程度が左右される。最低限のサービスは「出来て当たり前」と思われるため不満足は解消されない。許容範囲の中に持つていかなければならない。受講生からは具体的に利用者からの意見・注文をどの

ように対応したかが出され、対応について活発な意見交換があった。

大学が法人化することで何が変わったのか、学生の質の変化等を具体的に学んだ。図書館員の舞台は図書館（職員）に限らず、教員となることも求められている。大学経営にもっと発言し、図書館の存在意義を問い合わせ、自己の役割分担を明確にして専門性を示していくことが図書館員が生き残る手段だと感じた。

#### <学術情報流通等各論>

- 「利用者の情報行動」：学生は物心ついたときからインターネット、携帯電話に親しんでいるデジタルネイティブだが、携帯中心であるため PC リテラシーは高くない。筑波大学での実験結果では、学生は情報探索に簡便と素早さを重要視する傾向があり、各種データベースではなく普段使い慣れた web を利用していた。 Wikipedia を起点として一次情報にあたることで信頼性を確保しようとしている。学生の情報探索行動をよく知ることが、本来の学習支援・教育支援と言える。
- 「大学図書館の学習支援」：教えるだけでは内容の 95%が忘れられる。情報探索は探索手法だけではなく全プロセスを教え、"情報学的な分かり方"を理解させる。思考プロセスの"見える化"と「共有」を可能にする空間がラーニングコモンズである。利用者が容易に情報源を発見できる環境下では、情報源を総合的に活用し問題解決を支援する踏み込んだ情報リテラシー教育へ移行せざるをえない。FD 活動と協働することで質の高い情報リテラシー教育を提示していく努力を続けていかなければならない。

学習支援を行うためには、学生の思考プロセス・学習行動の理解に努める必要がある。これからの図書館はデータベースの提供から、利用者の検索技術・知識レベルを問わないディスカバリー・サービスの提供へと変化していると感じた。対応できなければデジタルネイティブ世代の図書館離れはますます進む。しかし、図書館サービスが進化しても、学生の基礎学習能力で十分理解し、駆使できるような人的サポートが伴わなければならないだろう。

#### <演習・班別討議>

2 日間で、日常業務の「困りごと」から出発して、職場の問題を明らかにする思考技法、職場の問題の原因を追究する思考技法、職場の問題の解決策を系統的に洗い出す思考技法を班別で演習した。目標ないところに問題は発生しないのだから、「1 回話して分かってくれない」（理想欲求）と諦めるのではなく、人を動かす（動機づける）ためには論理と情熱をもって話し込むことが基本であると学んだ。

その後、班のメンバーを変え、演習で学んだ技法をもとに各班具体的な問題を設定し、解決策をプレゼンした。私の班は国立大学共同利用機関・公立大学・私立大学と設置母体の異なるメンバーで構成されていた。多くの館が正規職員が少ないとから来る問題を挙げ、その中から「非正規職員の勤務意欲の向上についての提案」を設定した。定期的なミーティングを開催することや、やりがいを感じるために利用者に役立っていると実感できる業務（ILL やガイダンスの助手）に就かせることなどを提案した。

講師から受講生への総評として「すぐアピール不足を口にするが、"図書館は良いサービスを提供している" という前提が間違い。」という厳しいコメントをいただいた。

#### <おわりに>

設置母体や規模は異なっても同じような悩みを抱えている図書館員は多く、愚痴を吐きながら

も楽しい2週間を過ごせました。講師陣は厳しい言葉の中にも「諦めない」「0か100かで考えない」「3勝7敗でいいじゃないか」と叱咤激励してくださいり、心強く思いました。

最後になりましたが長期研修の機会を与えてくださった公立大学協会図書館協議会に心よりお礼申し上げます。また、研修期間中の業務をサポートしてくださいった職場の皆様に感謝いたします。

平成 23 年度大学図書館職員長期研修日程

7月		午 前			午 後			
		9:15~10:45		11:00~12:30		13:45~15:15	15:30~17:00	
4	月	受付 9:30	10:00 オリエンテーション	11:30~ 開講式 文部科学省講話	大学と大学図書館 古田 元夫 東京大学附属図書館長	大学経営の課題 吉武 博通 筑波大学教授		
5	火	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習		
6	水	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習		
7	木	国立大学図書館の経営 田中 成直 東京大学附属図書館事務部長	利用者の情報行動 逸村 裕 筑波大学教授	認証評価と大学図書館 土屋 俊 大学評価・学位授与機構教授	大学図書館職員の新たな役割 竹内比呂也 千葉大学附属図書館長及び アカデミック・リンク・センター長			
8	金	経営学入門 I 佐野享子 筑波大学准教授	経営学入門 II 佐野享子 筑波大学准教授	オープンアクセスと 機関リポジトリ 倉田敬子 慶應義塾大学教授	班別討議			
9	土							
10	日							
11	月	電子図書館マネジメント 宇陀則彦 筑波大学准教授	学術情報コミュニケーションの動向 尾城孝一 東京大学附属図書館 事務部付課長	図書館と建築 植松貞夫 筑波大学教授	古典資料の保存と利用 綿抜豊昭 筑波大学教授			
12	火	私立大学図書館の経営 鈴木正紀 文教大学越谷図書館課長補佐	研究者のアクセス手法 I 木越英夫 筑波大学教授	研究者のアクセス手法 II 波多野 澄雄 筑波大学附属図書館長	班別討議			
13	水	国立情報学研究所の戦略 青木利根男 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長	大学図書館の学習支援 井上真琴 同志社大学 企画部企画室企画課長	公共図書館の戦略 常世田良 (社)日本図書館協会 事務局次長	班別討議			
14	木	図書館と法 石井夏生利 筑波大学准教授	デジタルコミュニケーション 社会の展望 アップル・ジャパン(株)	班別討議 発表	班別討議 発表			
15	金	ヒューマン・リレーションスキル 宗像恒次 筑波大学教授	筑波大学中央図書館 見学	閉 講 式				